

生成AIを用いた医療事故調査報告書分析・実践研修事業について (厚生労働省補助金事業)

1. 概要

- ・事業名：生成AIを用いた医療事故調査報告書分析・実践研修事業
- ・業務実施期間：令和7年度（令和6年度からの繰り越し）
- ・補助金額：83,042,000円
- ・事業計画：

院内調査報告書の整理・分析やセンター調査報告書の作成等の過程において、専門家等による分析の補助となる生成AIを開発・活用し、これらの業務を効率化し医療事故の再発防止に関する普及啓発の充実を図る。また、生成AIを活用して医療機関における院内調査の実施及び報告書作成上の課題を抽出し、課題に立脚した実践的研修を行い、医療機関における院内調査の質向上を図る。

2. 事業の内容

現在行っているAI開発の内容は、1) 現行のセンター業務の効率化と2) センターに集積された全ての報告書の横断的な分析の二つに分けられる。

1) 現行のセンター業務の効率化

現行のセンター業務にAIを導入し業務の効率化と負担軽減を目指すものであり、具体的には、事故報告書類の仮名化作業、事例概要の作成、臨床経過のまとめ作業、用語注釈の作成等である。

2) センターに集積された全ての報告書の横断的な分析

現在は、人的作業により行っている分析テーマ抽出を、AIにより報告書全てに対して網羅的、体系的に行う新たな試みである。報告書へのタグ付け（分類項目・キーワード一式の抽出・体系化と報告書への付与）や、院内調査報告書のテーマ毎の比較分析等が、具体的な作業内容となる。

3. 実施方法

1) 業者への委託

業務全体の管理、センター業務の整理・構造化およびAI業務要件を策定するAIコンサルティング業務と、AIを構築するAI構築業務について、業者に委託して実施している。

2) AI構築（オンプレミス環境での構築）

センターの業務は機微に触れる個人情報を取扱うことから、外部のインターネット

ト環境に接続しないことを前提としている。そのため、AIを運用するサーバは機構内に持ち（オンプレミス）、業務要件に対してAIの能力を最適化することで、比較的少ない計算リソースであっても有効に業務に活用できるAIの構築を進めている。

※一般的に、AIの業務への導入にあたっては、データセンター等で運用される大規模な計算リソースを持つサーバ上で運用される大規模なAIモデルが利用される。

4. 業務の進捗

1) これまでの経過

- ・2025年 3月 AIコンサルティング業者と契約し、センター業務の整理・構造化作業に着手
- ・2025年 7月 公募によりAI構築業者を選定し、本事業に携わるAI構築業者、AIコンサルティング業者とともにAI開発に着手
- ・2025年 9月 AI用サーバが納品され、AI開発に本格的に取り組む
- ・2026年 2月 全ての対象業務についてAIの要件定義が完了、構築完了に向けてテストと改善を繰り返す作業を行う

2) 現行のセンター業務の効率化について

実際の業務に利用できる水準にするためにテスト→評価→改善のサイクルを繰り返して精度を上げる作業を行っている。3月末の事業完了時点で、一定水準をもってAIを業務に活用できる見込みである。

3) センターに集積された全ての報告書の横断的な分析について

分析の前提となる報告書へのタグ付け（分類項目・キーワード一式の抽出・体系化と報告書への付与）について、業務に利用できる水準となるよう試行中である。